

令和4年度 堅田小学校学校評価書

(実施時期：：自己評価…令和4年11月)

学校関係者評価…令和5年2月)

| 項目 | | 評価の観点 | 評価 | | | 項目に関する分析・意見・提言 など ・職員 ◇学校関係者 (PTA・地域等) | 今後の改善に向けて |
|--|---|--|---------------|------------|---|--|--|
| 大項目 | 中項目 | | 小項目評定 (職員) | 自己 (職員) | 学校 関係者 | | |
| スタ 堅 田 小 学 校 | 授業 づくり | 基本的な学習の流れ(「めあて」「まとめ/ふり返り」等)、「学習の約束」、基礎学習タイム、朝読書タイム、を意識した指導に努めている。 | A | A | A | <ul style="list-style-type: none"> 「掃除」の指導については、目標設定等、もう少し子どもたちが意欲を持てるような取り組みがあると良いように感じる。 3つの約束について、今年度は学期毎に生活目標に取り入れることにより、より定着している。最近では、学級ごとに具体的な目標を考える取り組みも実施していて、効果がある。3つの約束にを堅田小の良さととして、児童が発信できるまで高めていきたい。 問題行動については、組織的に対応できているが、対応に苦慮する事案が多く、職員が対応に多くの時間を費やしてしまっていることが課題である。 「めあて」はかなり定着してきたが、次の時間につながる「振り返り」を検討していきたい。基礎学習タイムの効果的な運用についても検討していきたい。 朝読書により、落ち着いた一日のスタートが切ることができている。電子図書の活用も各学年に拡大していきたい。 「スタンダード」にかかわる事項については、どの学年、学級でも自信をもってやっていますと言えるようにしたい。 学年で問題行動が発生したときには、まず学年で何ができるかを考え、次に各担当の教員に相談するように努めた。 基本的な学習の流れは子どもによくしみついていると思います。 基礎学習タイムや朝読書タイムの充実させたいが、時間設定が10分で集中しづらい。 毎月の生活目標について、生徒指導部会で、学校全体の子どもの実態や課題を共有しながら、毎月検討することができたことが、よかった。 問題行動、いじめ、不登校、虐待などに関わることについては、きめ細かな対応ができていると感じる。 ◇掃除の仕方の指導は、年間を通じてすることが大切だろう。また、地域のボランティアの活用も有効だろう。 ◇あいさつについては、あいさつをされると地域の人はうれしかったり、元気な気持ちをもたらしたりするということを子どもたちにも伝えて、その価値についても気付かせてほしい。 | <ul style="list-style-type: none"> 「3つの約束」については、引き続き定着を図っていく。次年度は、各学級が設定した目標が実践できているか、適宜振り返る時間を大切にすることで、児童らの意識がより高まるようにしていく。また、堅田小のよさとして、児童らが自ら実践し、取り組みを学校の内外に発信できるようにしていきたい。 今後の課題として、「そうじ」を児童らが意欲を持って取り組むことができるように指導を工夫していく必要がある。 問題行動については、対応に多くの時間を費やしている現状がある。未然防止の活動を充実させることで課題改善を図りたい。 基礎学力タイム・朝読書タイムを行うことによって時間のけじめができてきている。基礎学力タイムは、学習習慣の定着にもつながっているため、子どもたちの課題を補うような内容にして、充実させていきたい。また、時間も10分から15分に延ばし、より学力向上につながる時間にしていきたい。 |
| | 生徒 指導 | 3つの約束「あいさつ」「そうじ」「聴く」の指導の徹底、問題行動・いじめ・不登校・虐待等についての迅速な組織対応(学年、担当、関係機関)に努めている。 | A | A | A | <ul style="list-style-type: none"> 学年で問題行動が発生したときには、まず学年で何ができるかを考え、次に各担当の教員に相談するように努めた。 基本的な学習の流れは子どもによくしみついていると思います。 基礎学習タイムや朝読書タイムの充実させたいが、時間設定が10分で集中しづらい。 毎月の生活目標について、生徒指導部会で、学校全体の子どもの実態や課題を共有しながら、毎月検討することができたことが、よかった。 問題行動、いじめ、不登校、虐待などに関わることについては、きめ細かな対応ができていると感じる。 ◇掃除の仕方の指導は、年間を通じてすることが大切だろう。また、地域のボランティアの活用も有効だろう。 ◇あいさつについては、あいさつをされると地域の人はうれしかったり、元気な気持ちをもたらしたりするということを子どもたちにも伝えて、その価値についても気付かせてほしい。 | <ul style="list-style-type: none"> 本年度より取り組んでいる、基本的な授業の約束や授業の流れを示した「堅小スタンダード」の内容を精選したうえで徹底できるようにしていきたい。 子どもの課題であるコミュニケーション力や書く力を向上させる取り組みとして、「自分の考えをまとめる時間」「考えを伝え合う(交流する)時間」「めあてのふりかえり」などは意識的に時間を取るようにしていきたい。また、グループ活動やペアでの対話は支持的な風土の学級作りをもとに充実していくものであるため、学力向上につながる学級作りの効果的な取り組みについても、校内研究を通して考えていきたい。 ICT機器に関しては、これまで各学年で取り組んでいる実践をもとに効果的な活用をしばらくこんだり、新しいツールを積極的に取り入れたことにより進めていきたい。 |
| 学 ぶ 力 の 向 上 と 個 性 を 伸 ば す 教 育 の 推 進 | 主体的・対話的で深い学び | 互いに認め合う支持的風土を育てる学級・学年集団づくりに努めている。 | A | B | B | <ul style="list-style-type: none"> 学級ごとには高まりを感じるが、学校全体という視点で、子ども、家庭、地域が高まりを感じられるような取り組みをしていく(発信していく)必要がある。 自己研鑽がまだまだ必要で、長期休暇中なども研究しなければと感じている。 ICT活用は全学年で積極的にできている。しかし、全てをICTに頼るのではなく、効果的な場面で効果的な活用となるようさらなる研修を心がけていきたい。 書く活動を積極的に取り入れ、考える時間を大切にしたい。 グループ学習は随分導入できるようになってきているが、学級間格差が生じているのでスタンダード化したい。学校全体として、意識してペア学習やグループ学習を取り入れていきたい。 学年でタブレットを効果的に活用した授業づくりができた。 ペアやグループで考える場を取り入れた授業づくりに取り組んでいる学級もある。学校全体として取り組んでいけるよう、スタンダード化し、低学年から系統的に取り組んで積み上げていきたい。 「協同的な学び」の場面を学級経営の機会と捉え、相手を思いやる発言・行動を認め、学級全体に紹介するようにした。 「主体的・対話的で深い学び」をどのように作っていくのかを学校で統一して取り組んでいきたい。ペアやグループ活動を取り入れているかどうかは差が大きいと思います。 各学年の研究授業を単発で済ませず、年間を通してPDCAサイクルで深めていきたい。研究主任を中心に、もっと段取りよく一丸となって取り組みたい。 授業時間には、ペアやグループでの話し合いの時間を取り入れ、学び合う授業になるようにしている。 ◇学習の様子を参観したが、タブレット端末等のICT機器の活用が進んでいた。子どもの顔もいきいきしていた。 | <ul style="list-style-type: none"> 本年度より取り組んでいる、基本的な授業の約束や授業の流れを示した「堅小スタンダード」の内容を精選したうえで徹底できるようにしていきたい。 子どもの課題であるコミュニケーション力や書く力を向上させる取り組みとして、「自分の考えをまとめる時間」「考えを伝え合う(交流する)時間」「めあてのふりかえり」などは意識的に時間を取るようにしていきたい。また、グループ活動やペアでの対話は支持的な風土の学級作りをもとに充実していくものであるため、学力向上につながる学級作りの効果的な取り組みについても、校内研究を通して考えていきたい。 ICT機器に関しては、これまで各学年で取り組んでいる実践をもとに効果的な活用をしばらくこんだり、新しいツールを積極的に取り入れたことにより進めていきたい。 |
| | 道徳教育の充実 | 生命の大切にする心やいじめを許さない態度などの道徳実践力を育むよう、「特別な教科 道徳」を中心に、全教育活動で行っている。 | A | B | A | <ul style="list-style-type: none"> 問題行動の未然防止という視点からも、道徳教育の充実が必要だと思う。計画や取組を「見える化」していく必要があると思う。 いじめ防止に向けて、道徳授業と保護者啓発を組み合わせた取組を全校で実施した。今後も学校のみならず、保護者や地域といじめ撲滅のために手を携えて取り組んでいきたい。いじめ防止のために、全学年が同じテーマで道徳の授業に取り組んだ。子どもたちの意識が変わったと思う。 生命を大切にする心やいじめを許さない態度を育むため、道徳の授業を中心に全教育活動で機会を捉えて行っている。 ◇道徳教育においても、ゲストティーチャー(弁護士、携帯電話会社等)を招いた「いじめ防止に関わる授業」や「情報モラル育成のための授業」が実施されていてよい。 | <ul style="list-style-type: none"> 問題行動を未然防止すべく、今後も道徳教育の内容の充実を努める。 全学年でいじめ防止のために重点的に道徳に取り組んだ結果、児童の意識を高めることができた。また、ゲストティーチャーを招いて講義を行うことが、児童たちには新鮮で効果的な学びにつながった。今後も継続的にこのような機会を設けていきたい。 |
| | 体力づくり | たくましい心と体を育てる魅力ある授業や体育行事の工夫や改善に努めている。 | B | A | A | <ul style="list-style-type: none"> 「できた・うれしい・またやりたい」が続くよう、意図的・計画的な取組を考えていきたい。 令和5年度より校舎改修のため、運動できる場所が減るが、児童の運動量が減らないように工夫をしていきたい。 「スポーツフェスティバル」については、結果を重視するのではなく、それまでの学習過程を重視することを今後も大切にしたい。学校が大切にしていることを保護者にも理解していただいた上で、時期や種目数等を含めて検討していく。 保護者に、体育の宿題の意図がしっかりと伝わっていないように感じたので、もっと伝えていく必要があったと感じている。 コロナ禍でも子どもたちの体力向上に向けて、「カタリンピック」等、前向きに様々な取組ができた。年間を通じた取組にすることができた。テーマを定期的に設けたことや、ポイント集計をしたことなど、子どもたちも楽しみながら運動に親しむ機会がたくさんあり、運動に親しむ姿が嬉しそうだった。 ◇スポーツフェスティバルを参観したが、感染対策もされていた。内容も十分、意味のあるものであった。 | <ul style="list-style-type: none"> 今年度は「カタリンピック」の取組を年間を通じて行った。①各学期の大会(本校の強みを伸ばす、弱みを高める種目にフォーカス)②体育の宿題(単元につながる運動のアプローチや紹介)③スポーツフェスティバル(団体競技の色別得点)を軸にし、教師にも児童にも分かり易く取り組んでみようと思える内容ができた。次年度以降も継続して取り組んでいく上で、反省を踏まえ、保護者にも意義と理解が伝わるよう精査していきたい。 |
| | 児童の健康に対する保持・増進の意識や、運動しようとする意欲の育成に努めている。 | B | B | A | <ul style="list-style-type: none"> 「できた・うれしい・またやりたい」が続くよう、意図的・計画的な取組を考えていきたい。 令和5年度より校舎改修のため、運動できる場所が減るが、児童の運動量が減らないように工夫をしていきたい。 「スポーツフェスティバル」については、結果を重視するのではなく、それまでの学習過程を重視することを今後も大切にしたい。学校が大切にしていることを保護者にも理解していただいた上で、時期や種目数等を含めて検討していく。 保護者に、体育の宿題の意図がしっかりと伝わっていないように感じたので、もっと伝えていく必要があったと感じている。 コロナ禍でも子どもたちの体力向上に向けて、「カタリンピック」等、前向きに様々な取組ができた。年間を通じた取組にすることができた。テーマを定期的に設けたことや、ポイント集計をしたことなど、子どもたちも楽しみながら運動に親しむ機会がたくさんあり、運動に親しむ姿が嬉しそうだった。 ◇スポーツフェスティバルを参観したが、感染対策もされていた。内容も十分、意味のあるものであった。 | <ul style="list-style-type: none"> 今年度は「カタリンピック」の取組を年間を通じて行った。①各学期の大会(本校の強みを伸ばす、弱みを高める種目にフォーカス)②体育の宿題(単元につながる運動のアプローチや紹介)③スポーツフェスティバル(団体競技の色別得点)を軸にし、教師にも児童にも分かり易く取り組んでみようと思える内容ができた。次年度以降も継続して取り組んでいく上で、反省を踏まえ、保護者にも意義と理解が伝わるよう精査していきたい。 | |

| | | | | | | | |
|-------------|---------------|--|---|---|---|---|--|
| | 指導改善（組織的・計画的） | <p>教員間で授業交流や教材研究等に積極的に取り組むなど、学ぶ力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善に努めている。</p> <p>校内研究、職員研修、会議等を通して、学校全体としての教育力、指導力の向上に努めた（ICTの活用含む）。</p> <p>働き方改革や教育活動の質の改善に向け、計画的な準備・役割分担・ICT活用などの取組に努めている。</p> | B | B | B | <ul style="list-style-type: none"> ・教師の経験（若手、中堅、ベテラン）に関わらず、授業を公開し、授業の基本スタイルや最新の授業スタイル（授業の不易と流行）を学び合える機会を確保したい。どの層も学び続ける堅田小学校の教職員集団を目指す。 ・研修や授業研究や授業準備に充てられる時間が非常に少なく、余裕がない。校内研究は勉強にはなるが、やはり負担が大きい。 ・校内研究については、学校として子どもたちにどのような力をつけ、どのような授業を目指し、研究していくのが、焦点化しきれていなかったことが反省である。校内研究では、学校全体として焦点化、一本化を図っていきたい。 ・日々の学習や行事に向けてやることが多く、ペアやグループ活動での学習形態を取り入れた授業を意識していく必要があるが、教師主導型で授業を展開せざるを得ない状況もある。もっと余裕をもった行事や授業の年間計画を考えていく必要がある。 ・研修や会議等は計画的に準備、役割分担されている。 ・目先の授業技術の向上だけでなく、数年先の堅田小を見据えてOJT研修に取り組むことができた。それぞれの職員が学校全体という視点を持って研修に参加できた。しかし、勤務時間内に充実した研修を実施できるよう、工夫していく必要がある。 ◇教員の負担軽減のためにも、地域人材の積極的活用を進めてほしい。 ◇OJT、PDCAサイクル等、今の時代に応じた研修体制が組まれている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・次年度も、目先の授業技術の向上だけでなく、数年先の学校の姿を見据えたOJT研修を計画的に行う。勤務時間内に充実した研修を実施できるよう、研修時間の設定を工夫する。 ・教材研究や研修の時間が確保できるよう、行事や取組内容の精選を今後も進め、教材研究や研修の時間に充てる。 ・働き方改革の趣旨を理解した上で、全職員でさらなる改善を進めていく。その際、一人ひとりが主体的に改善を図っていく姿勢を持つ。 ・校内研究をより充実し、子どもの課題に寄り添った授業改善を行っていく。校内研究のテーマや研修内容をより子どもの実態に即したものにしていく。 |
| 育ちと学びを支える連携 | 家庭・地域との連携・協働 | <p>保護者との個別相談や必要に応じて関係機関との連携を図り、子育てに対する積極的な支援に努めている。</p> <p>保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会の実施や地域人材の活用などに努めている。</p> <p>防災教育の推進、防犯や感染症対策の推進を図るため、家庭・地域と連携したり、メール配信やホームページなどを活用して情報発信をしたりするなど、安心・安全な学校づくりに努めている。</p> | A | A | A | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方の協力で学校だけではできない学習を行うことができた。 ・地域人材の活用や、教育活動の地域への発信、地域の方々との交流は推進できた。今後は、「課題」についても積極的に連携していきたい。 ・図書ボランティアや家庭科ボランティア等、保護者や地域の皆様に教育活動に協力いただいた。様々な学校情報を積極的に発信し、学校を見る化して確かな安心と信頼を獲得したい。 ・地域の人が積極的に関わってくださることが多く、学習支援などの連携ができています。しかし、逆にそれが負担になりすぎないように、新しいことを地域の人と始める時は慎重にしないと、せっかくの好意が双方の負担を増やすことになりかねないと感じた。 ・家庭への連絡（良いことも悪いことも）を密にしたいという思いはあるが、授業時間中に連絡帳に書く時間がなかったり、放課後の電話も保護者も忙しいかなと気が引けてしまうことがある。 ・関係機関と連携を取り、個々の家庭環境や、成長過程を鑑み、積極的な支援に努めている。 ◇地域の方で学校の草刈り等、協力させてもらっているが、今後も必要に応じて他のことも協力していきたい。 ◇通学路については、保護者、地域、学校が連携し、必要に応じて状況確認や見直しについて検討していきたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・今後も、地域や関係機関にも協力いただき、地域の歴史学習、防災学習、環境学習等に取り組んでいく。 ・地域や関係機関との連携を今後も続けていく。その際、目的を明確にし、無理のない持続可能な連携にしていく。 |
| | 保幼小中の連携 | <p>体験入学、部活見学など、校種間の円滑な接続に向け、子どもの校種交流や教員の出前授業などの取組に努めている。</p> <p>校種間の授業公開や、堅田人権教育研究会（堅教研）などの合同研修に努めている。</p> <p>保幼小連絡会、小中連絡会など、保幼小中の円滑な接続に向け、教育内容、効果的な支援などについての交流に努めている。</p> | B | B | B | <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で活動が制限される中でも、互いの顔が見える連携を進めることができている。また、夏季休業中に小中合同で研修を開催した。 ・中学校には1学期の段階から小学校へ出向いていただき、6年生に対して講話をしていただいた。小学校の教員が幼稚園の子ども展に出向き、取組の理解に努めた。滑らかな接続（園から小学校、小学校から中学校）を意識した教育課程づくりに生かしたい。 ・年度当初に保幼小連絡会があり、園での様子を聞く機会ももった。 ・5歳児と5年生児童が交流することで、来年度入学児童が安心して生活できる環境作りのための活動をしている。中学校とも連携を取り、中学生生徒が小学校に訪れ、中学生の様子が見えるような取り組みを行うことができた。 ・堅田教育研究会で、児童・生徒の支援の継続を話題にして話合えた。どのような関わりがあって、現在の成長があるのか、保育園、小学校、中学校、担任、支援員など、様々な立場で話し合うことができた。長い関わりで、子どもを支援する視点も大事だと感じた。 ◇保幼小中での連携が積極的に進められていてよい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中、以前のような連携ではなく、新たな仕方での連携が行われている。今後も精査しながら継続した連携を進めていく。 ・今後も園から小学校、小学校から中学校への円滑な接続に向けた取組を継続していきたい。 |
| | 生徒指導体制の充実 | <p>日ごろから子どもとの関わりを意識的に高め、子どもが気軽に相談できる雰囲気づくりなど、諸課題の早期発見、日常的な予防指導に努めている。</p> <p>問題行動やいじめ、不登校傾向の児童に対して、組織的な支援体制で対応できている。</p> <p>あいさつ運動、休業中の約束（夏休みのくらし等）、いじめ対応など、家庭・地域・関係機関との連携による指導に努めている。</p> | A | A | A | <ul style="list-style-type: none"> ・放課後の情報共有をはじめ、組織対応は定着しており、指導・支援を充実させることができている。関係機関連携も推進でき、対応の一部として定着している。 ・事案によって対応に苦慮することがあり、人員と時間が割かれる。職員ひとりひとりの認識のずれがでないよう、平時の情報共有（学年会等）を充実させる必要がある。 ・未然防止の取り組みについては、具体的にどのようなように推進していくのか協議する必要がある。 ・教育相談月間や定期的なアンケートの実施により、日頃聞き取れないような子どもの声や悩みを聞き取る貴重な機会となった。諸問題が起きたときに、組織として支援ができた。 ・子ども達の話聞くことを大切にしている。児童の何気ない行動や発言から、周りの児童がどう受け止めるかわからないことを意識して、気になることにはすぐ指導するように心がけている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・放課後の情報共有をはじめ、組織対応は定着しており、今後も指導・支援を充実させていく。 ・職員ひとりひとりの認識にはずれがあるということを意識し、状況に適切に対応できるよう、平時の情報共有（学年会等）を大切にしている。 ・学校だけでなく、専門家や関係機関との連携を一層充実させることで、子ども支援に努める。 ・未然防止の取り組みについては、具体的な計画について生徒指導部会で検討しながら進めていく。 |
| 組織体制の充実 | 特別支援教育の充実 | <p>支援を要する児童の個別の指導計画を作成・活用し、支援に努めている。</p> <p>組織的・計画的な特別支援教育の体制づくりに努めている。</p> <p>関係機関やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と連携した相談体制の充実に努めている。</p> | A | A | A | <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関、専門家と連携した対応ができている。教育相談や特別支援教育については、担当者やコーディネーターを中心に組織的に取り組んでいる。研修を深め、保護者や地域の理解を促す手立ても今後検討していきたい。 ・支援を要する児童の個別の指導計画を作成し、保護者と、よりよい支援について懇談を行っている。支援を要する児童の個別計画を作成・活用し、支援に努めている。支援を要する児童の様子を日々共有しながら、支援に努めることができている。 ・児童の状況を見通し、個別の支援計画の作成や入級指導など、早期の保護者との連携が必要である。また、毎年度12月の懇談時には、しっかりと保護者へ伝えるように共通理解が必要だと思う。各学年が困っておられることを、その都度聞いて共に考えられる体制づくりや、時間的余裕が持てるように工夫したい。 ・カウンセラーとの保護者面談や児童面談がタイミングよくできてよかった。 ・個別の支援計画をもとに、子どもの姿を見取り、支援に努めました。支援を要する児童については、部会で共有し対応については、共通理解できている。校内体制は、とってはいるが学級担任外の教員の負担がかなり多くなってきているように思う。 ・保護者の思いに沿って児童の指導について学年の教員全体で理解し対応を考えている。教師間で話したり相談したりできる時間の確保については検討していく必要がある。 ・巡回相談や、関係機関のアドバイスを、なるべく広く共有できるよう心がけていきたい。 ◇今後も、他機関と連携し、組織的に取り組んでいくことを期待している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・SC（スクールカウンセラー）への相談体制について、保護者へ周知し子育ての悩みがある方に活用してもらえようとしている。今年度もたくさんの保護者が、SCへの相談の機会を利用されており、児童が円滑な学校生活を送る助けとなっている。また、必要に応じて保護者とSSW（ソーシャルスクールワーカー）が出会う機会を作り、関係機関とつながりやすくしている。今後も関係機関との連携がスムーズにいくようにしていく。 ・今後も校内の複数の教員で連携して、情報を共有しながら、個別の支援について考えていく。学校全体として子どもたちを支えていけるように、今後も共有することを大切にしていける。 ・特別支援学級への入級や個別指導計画の活用の際して、保護者にその必要性について共通理解を図りながら、積極的な活用を努めていく。 |